

学校説明会・相談会を海外で開催

(海外子女教育振興財団)

海外子女教育振興財団は例年、日本人学校や補習授業校等の協力のもと、帰国子女受け入れ校と共に「学校説明会・相談会」を実施している。海外に滞在している小・中学生とその保護者を対象に、進学に関する学校の情報や相談の場を提供することがおもな目的。

今年度は五月に、北米(二回)と欧州、アジアで行い、北米は一〇四人、欧州は八一八人、アジアは八五七人、総勢二八七九人の来場者があった。

開催した都市は、北米がサンフランシスコ(サンノゼ)・ロサンゼルス・メキシコシティ・ヒューストン(五月四〜九日)、コロンバス・シカゴ・ニューヨーク・ワシントン(五月七〜十二日)、欧州がマドリッド・ロンドン・デュッセルドルフ・アムステルダム・ブリュッセル(五月十八〜二十四日)、アジアがベナン・ニューデリー・シラチャ・バンコク・マニラ(五

月二十〜二十七日)。一部の都市では、日本人学校の取り組みの環境として子どもたちも参加した。

本財団の教育相談員が相談事例等を交えながら帰国後の学校選択に関する講話を行ったのち、帰国子女受け入れ校がそれぞれ自校についてパワーポイントや映像を活用するなどしてプレゼンテーションを行った。続いて学校ごとのブースで個別相談が実施され、本財団の教育相談員も教育に関する一般的な質問や相談にこたえた。さらに会場では参加していない受け入れ校の資料等も配付された。

来場者からは「各学校の教育方針のもとに、帰国生を丁寧に迎えるようとしてくれるのを感じて、心強く思った。子どもの性格や将来の希望などを考えて志望校を絞っていきたい」、「最近の日本の学校の様子がわかってよかった。子どもが参加できなかったのが残念」、「関東圏等以外、日本各地の学校の話も聞ける」とさらによかった」、「相談ブースでは、具体的な質問に真摯にこたえてくださり、先生の姿を通して学校に好感を持つた」などの感想があった。

また参加校の先生からは「実際に保護者のかたや子どもと接して

ニーズを感じることができた。想定外の質問もあって新鮮だった」、「各参加校の帰国生の受け入れ状況や今後の方向性がわかり有意義だった」等の声が聞かれた。

学校会員連絡協議会を東京で開催

(海外子女教育振興財団)

海外子女教育振興財団は六月六日、金沢工業大学大学院虎ノ門キャンパス(東京都港区)において、本財団の維持会員である帰国生受け入れ校の関係者等を対象に「帰国生のための特別プログラム(習熟度別授業、進路指導、入学後の支援体制等)について」をテーマに協議会を開催した。同会は各校の受け入れ体制をさらに魅力的なものにしていだくための情報交換の場として行われている。

四十七の学校や企業等から六十二人の参加があった。

はじめに本財団の中村雅治理事長があいさつに立ち、日ごろの支援に感謝するとともに、海外子女の動向に関して「滞在国外等による就学形態の違いが顕著に見られ、多様化が進んでいる」と話した。

その後、お茶の水女子大学附属中学校教諭の大塚みずほ氏が「多

様性を尊重する学校を目指して、帰国生一人ひとりを支える・生かす・伸ばす」と題し、自校の取り組みについて講演を行った。帰国生の特性は多様性にあるとし、彼らを日本文化に同質化させるのではなく自尊感情を持てるように育む一方、一般生との相互啓発を目指していると述べた。さらに、個に応じた教育をするために、「将来、どう生きていきたいか」を生徒に問い続けると言い、自身に決めさせることが、その後の学習や責任を持つて生きるモチベーションにつながるべくと話した。

続いて、啓明学園中学高等学校国際学級主任の川上さくら氏が演台に立った。啓明学園は帰国生のための学校として始まり、現在、国際生は全体の約三十三パーセントを占める。国際生の教育に対しては「学校全体で取り組む」姿勢で、学習や生活等のあらゆる面でサポートを行っているという。その中心を担う国際学級では「自己肯定感」「ピア(仲間)サポート」「ことは全体を支えること」を大切に、「入試から進路まで生徒に伴走する」体制がとられていると紹介した。

質疑応答では、「ピアス等、校則はどのようにしているのか」「セミナー

ンガルの生徒に対する指導は？」等の質問が絶え間なく続いた。

## お知らせ

### 第11回日本語大賞

趣旨 円滑なコミュニケーションや人間関係を築くためには、場面に応じて正しいことばを使うことが不可欠。日本語の美しさやことばが持つ力を見つめ直す。

テーマ ①美しい日本語  
②おもしろい日本語

募集対象 ①一般・高校生

募集期間 6月1日～9月30日

詳細・問い合わせ先・応募先  
NPO法人日本語検定委員会  
日本語大賞係

<https://www.nihongokentei.jp>

### JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019

テーマ よりよい世界の未来を目指して～私たちが始まる一歩～  
趣旨 世界に目を向け、その多様な国際社会が抱えている課題を知り、よりよい世界のためにできることを考える。

募集対象 満20歳まで

募集期間 6月7日～9月11日

主催 独立行政法人国際協力機構  
詳細・問い合わせ先

公益社団法人青年海外協力協会  
内JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト全国運営事務局  
<https://www.jica.go.jp/hirobal-program/apply/essay/>

### 第13回KANTO中学生作文コンテスト(関東国際高等学校)

目的 首都圏および海外在住の中学生に対し、多様な外国語教育の普及と学習の動機づけを図る。

募集内容 日本語による作文(600～800字) タイトル(○○語でつながる私の夢)○○の部分には特定の言語(中国語・ロシア語・韓国語・タイ語・インドネシア語・ベトナム語のいずれかをかならず入れること)

応募期間 8月1日～10月中旬  
詳細・応募・問い合わせ先  
関東国際高等学校「KANTO中学生作文コンテスト」係  
<https://www.kantokokusai.ac.jp>

### 第14回科学の芽賞(筑波大学)

趣旨 朝永振一郎博士の功績をたえ、それを後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・

高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てる。

募集内容 自然現象に接するなかで「あれっ」「なぜ」と思うこと(「科学の芽」を実験や観察を通して育て、まとめる)。

募集対象 小学3年生～高校3年生(日本の学齢)

応募期間 8月19日～9月21日  
詳細・問い合わせ・応募先  
筑波大学東京キャンパス事務部  
学校支援課  
<http://www.wtsukuba.ac.jp/community/kagakunome/>

### 第11回環境教育ポスターコンクール

目的 子どもたちが環境について考え、社会生活のなかで為すべきことを考える機会を持つことで、環境への責任ある行動をとれる態度を育成する。

募集内容 環境問題を扱ったポスター(かならず標語を入れること)

募集対象 小学生～高校生  
募集期間 8月23日～10月1日

詳細・問い合わせ・応募先  
公益財団法人こども教育支援財団 東京事務局  
<http://www.kodomo-zaidan.net>  
[http://www.kodomo-zaidan.net/ourbusiness/career\\_path/poster/poster.html](http://www.kodomo-zaidan.net/ourbusiness/career_path/poster/poster.html)

### 第2回「ヒューマンライブラリー」対話イベントを開催

「帰国子女」など、さまざまなステレオタイプで語られがちな人の経験について対話形式で語り合うイベントを、7月28日に上智大学で開催する。詳細はホームページを参照のこと。  
<https://kidsjapan.wixsite.com/adult-tick>

### 第2回「トビタテ！グローバル教師フォーラム」開催(文部科学省・海外子女教育振興財団)

日本人学校等から帰国した教員による教育実践や体験談等を紹介するフォーラムを8月5日(月)、東京で実施します。参加は無料で資格は問いません。詳細は追って、ウェブサイトで案内します。  
<https://www.joes.or.jp/collection/events>

### 新規ご入会維持会員

- ・株式会社新生銀行
- ・日東工器株式会社
- ・開智小学校(総合部)
- ・武蔵野大学附属千代田高等学校
- ・聖ドミニコ学園中学校高等学校